

くまもと農業・最適化推進運動に係るモデル地区の取組み

農委会名：南阿蘇村農業委員会

1 モデル地区の概要

- (1) 地区名：立野地区
- (2) 地区内の農地面積 71.51ha
- (3) モデル地区を担当する農業委員数及び推進委員数
 - ① 農業委員数：1人
 - ② 推進委員数：2人

2 地区の実態を踏まえた取組みの方向

立野地区では、熊本地震後に長期避難を余儀なくされ地区住民の村外転出が多くある。その影響を受け農家の担い手も離農などで、地区内農地の遊休農地増加が危ぶまれる。そんな中で、地区内の基盤整備事業を実施し担い手農家が耕作をしやすい環境の整備が急務である。

3 取組みの概要

熊本県農業公社、熊本県、南阿蘇村、南阿蘇村農業委員会とで連携し立野地区基盤整備事業に併せ農地中間管理事業を活用し、利用集積集約を推し進めた。

4 取組みの成果

- (1) 受け手・出し手の意向把握件数 63件
- (2) 農地中間管理機構への貸付実績 31.74ha
- (3) 担い手への農地集積実績 30.72ha



【農地集積や基盤整備事業の取組みに向けた話し合い】



【農地パトロールや現地確認の様子】

5 課題と今後の方針等

基盤整備の本格的な工事着手は令和5年度からであり、従前地での農地集積集約が完了してはいるが、本換地後に更なる集積が出来るように農業委員や関連委員と連携し情報の共有を図る。